

南部病院と地域のふれあいマガジン

なんぶメール

n a n b u - m a i l

- 南部病院 産婦人科のご案内
- 医療講座

vol.31
2021.1

特集「産科、婦人科、
小児科・新生児内科」



〈南部病院の理念〉

思いやりの心と質の高い医療で、
地域の皆さんから信頼される病院を目指します

〈南部病院の基本方針〉

- ・良質な地域医療、救急医療による地域への貢献
- ・他の医療機関との密接な連携と、患者さん中心の医療の実践
- ・医療・保健・福祉サービスの総合的な提供
- ・地域医療関係者および職員の相互研鑽



社会福祉法人

恩賜
財団

済生会横浜市南部病院



産科について

〈安心なマタニティライフ〉

妊娠がわかったとき、喜びと同時に多くの不安や悩みを持つのではないでしようか。そのなかでも分娩施設を選ぶのは皆さんとても悩まれるかと思います。

自宅からの距離、NICUの有無、入院施設や食事、費用など…。どれも大切なことだけれど短い期間で決める必要があります。

当院はNICU(新生児集中治療室)併設の総合病院です。総合病院だからこそできる安心なマタニティライフを提供します。

また、横浜市産科拠点病院に指定され、地域の医療機関と連携を取りながら、24時間365日いつでも安心して受診していただけるよう、体制を整えております。

他の診療科との連携と、高度な医療体制により、ほかの合併症をお持ちの方でも幅広く対応可能で。総合病院では待ち時間が長い診察の医師が毎回違う、土日の診療がない、などといった声も聞かれますが、当院では、32週頃まではお近くの産婦人科医院で健診を行っていただくことも可能です。そのような方でも、夜間や休日など通院している産婦人科医院が休診の際には当院での診察を受けることができます。

小児科について

〈産科と小児科の連携について〉

お母さんの出産と新生児の誕生は境目なく一連で起こるため、小児科・新生児内科と産婦人科は、妊婦健診のときから妊娠中の経過や、母体の合併症の状態、赤ちゃんの発育などの情報を周産期カンファレンスで共有し、今後起ころう可能なある問題などを密に意見交換し、妊娠期間中も連携しながら母子を見守っています。

例えば出産時の小児科医の立ち合いがあつた方が良いかどうかを決めたり、臍帯(へそのお)で検査したほうが良い項目などを決めたりしてい

ます。また、お母さんがB型肝炎ウイルスを持っている場合、計画的に母子感染予防を行います。が、妊娠中のうちにお母さんに小児科外来を受診していただき、出生後に児に行う処置などについて小児科・新生児内科医からあらかじめ説明をしています。

出産は、赤ちゃんにとって大きな変化がおきる場面です。そのときに、きちんと赤ちゃんに対応できるよう24時間体制で備えています。想定外の変化があつた時にも、医師同士が連絡を取り合っています。

また、定期的なカンファレンス以外にも、小児科医は毎日産科病棟で新生児診察を行い、産婦人科医や助産師との意見交換も日常的に実施しています。



助産師について

〈出産前～出産後までの関わり〉

外来から入院、退院後まで皆さんが安心して過ごせるよう、病棟と外来一体化の体制で対応していることが大きな特徴です。

助産師はアドバンス助産師やそれに準ずる能力を持った助産師が対応します。この機会を使って是非聞きたいことなどを相談していただき、少しでも妊娠～産後を安心して過ごしていただけ るよう力になりたいと思っています。

出産時は、正常な経過の場合助産師がメインに対応し、心配なことがあれば医師と協力して母児が安心・安全に出産となるようサポートしています。

産後は24時間母児同室の環境で、出産後からすぐ役に立つ技術の習得や母乳育児の支援を行います。赤ちゃんのお世話を初めてする方も多くいらっしゃるので、抱っここの方法から一緒に行っています。赤ちゃんがよく泣く夜間は、最低でも1時間に1回はスタッフがお部屋に伺います。ひとりで抱え込み過ぎずに、少しずつ自身のペースで育児に慣れ、退院後の生活をイメージできるように一緒に考えていきたいと思っています。

退院後は、1ヶ月健診までの間に電話訪問や母乳外来で、困ったことはないか相談に応じています。また、1ヶ月健診終了後も、母乳のトラブルや育児相談に対応しています。

婦人科について

〈婦人科疾患について〉

産婦人科は女性の一生をサポートし、診療する科です。

婦人科では女性特有の臓器である、子宮・卵巢・膀胱などから発生する、良性疾患（子宮筋腫や卵巣のう腫など）や悪性疾患（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）など、手術療法のほかに化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療など幅広く対応しています。

特に良性疾患に関しては腹腔鏡下での手術に注力し、子宮付属器の良性疾患（チヨコレートのう胞などの卵巣のう腫や異所性妊娠（子宮外妊娠）など）などは、ほとんどを腹腔鏡手術で対応しています。また、子宮筋腫や腺筋症、初期の子宮体がんなども、子宮全摘術を腹腔鏡で行っています。

さらに、腹腔鏡手術は入院日数が短縮されるばかりでなく、痛みの軽減や審美的な問題など、患者さんにとって「やさしい」手術を心がけております。

その他、異所性妊娠（子宮外妊娠）や卵巣のう腫の茎捻転など緊急手術を要する症例（婦人科救急搬送）も24時間体制で受け入れており、産科救急とともに婦人科救急にもその役割を果たしております。



南部病院の出産方針と特徴

南部病院で出産すること

済生会横浜市南部病院は、

- 母子が健やかであること

- 人生で数回の貴重なイベントを最大限手伝うこと

を第一に考えています。

私たちは「安全」を最優先に、新しい生命の誕生にむけて、皆さんと共に喜びあえるよう、お手伝いをしたいと考えています。赤ちゃんを「生ませる」のではなく、赤ちゃんの「生まれたい」という意思を大切にし、お母さんの「生む」力をお手伝いすることで皆さんお一人おひとりの思いに沿ったお産の援助を目指しています。

安心・安全の医療体制を目指して

当院は、横浜市の産科拠点病院、神奈川県の地域周産期母子医療センターに指定されています。

しかし、総合病院として妊婦さんの希望に出来るだけ答えられる、安心・安全づくりに努めています。産婦人科の医師の数と質、小児科・新生児内科との連携や救急での24時間体制での出産受入など、万全の医療体制で対応していることが一番の特徴です。

- 逆子だけど経産分娩で産みたい
- 双子だけど経産分娩で産みたい

そうした方の要望にも可能な限り対応しております。

外来から育児まで同じスタッフが支える

南部病院は、外来と病棟が同じスタッフで配置されています。そのため、妊婦さんは外来の妊婦健診から入院、分娩、退院後の健診や育儿支援まで同じスタッフがサポートにあたります。出産というお母さんが一番不安になるときに、信頼できるスタッフが横について安心できるように、この体制をとっています。

女性医師が多く、充実した女性診療科体制

2020年1月現在、産婦人科スタッフ11名のうち、9名が女性医師です。

「女性診療科」として非常に恵まれた医療環境を提供しております。

万が一の災害時には…当院からのお願い

当院は周産期母子医療センターとしての機能のほかに、災害拠点病院の機能・役割もあります。

当院通院中の妊婦さんに限らず、他施設の方も広く受け入れる体

制にありますので、災害時には、遠慮なく当院へご来院ください。

その際は母子手帳をお持ちいただけると、より一層安全に医療提供を行うことが可能になります。そこでぜひ口じるから母子手帳を携行する習慣をつけておいてください。

みなさんは、「お産のこと」を どのくらい知っていますか？

みなさんに、お産のリスクを少しでも理解してもらい、
より安心安全な出産ができますように

前期破水

前期破水とは、陣痛開始前の時点で赤ちゃんを包んでいる膜が破れ、羊水が流れ出ることです。

いつ起こるか予測することは難しく、予定日近くに起こることもあるれば、それ以前に起こることもあります。多くの場合には、破水後まもなく陣痛がはじまります。妊娠37週未満に起こると早産となる可能性が高くなります。

前期破水のリスクとして、子宮および胎児への感染リスクが上昇します。そのため、赤ちゃんの成熟が十分であると予測される妊娠34週以降では、分娩誘発を行い早期の分娩を目指します。

妊娠34週未満の前期破水では、分娩となった場合に、赤ちゃんの肺の成熟が不十分であることが多く、感染予防の抗菌薬を使用しながら妊娠の延長をはかります。

場合によっては赤ちゃんの肺成熟を促す目的で、コルチコステロイドを投与することがあります。

分娩停止

分娩停止とは、陣痛がはじまつてもかかわらず、なんらかの理由で出産まで至らない場合を指します。

分娩停止は、出産を控えている女性の誰にでも起こりうる可能性がありますが、事前の予測は非常に難しく、分娩がはじまってから診断されることになります。

分娩停止となってしまった場合、子宮口が全て開大し胎児の頭が十分に下降していれば、吸引・鉗子（かんし）分娩によって経腔的に出産できるよう処置を行います。

もし子宮口が開大していなければ、緊急帝王切開手術が必要になります。

胎児機能不全

胎児機能不全とは、お腹の中にいる赤ちゃんが、「子宮の中で元気な状態である」といい切れない場合のことを言います。

検査としては、心拍数の波形を確認し、元気なのか・具合が悪いのかを判断します。心拍のリズムだけでは判断が難しい場合は、超音波検査を実施しています。

胎児機能不全と診断された場合は、お産がどのくらい進んでいるかによって吸引・鉗子（かんし）分娩あるいは帝王切開をおこない、なるべく早く赤ちゃんを娩出（べんしゅつ）するようにします。

分娩後の出血のリスク

最も多い分娩後の出血の原因は、出産後の子宮弛緩です。

子宮弛緩の危険因子としては、子宮の過度な伸展、遷延分娩、頻産婦、弛緩作用をもつ麻酔薬、急速な分娩、絨毛膜羊膜炎です。

また、分娩後出血のその他の原因としては、創部出血や胎盤後血腫などがあります。

治療としては、子宮収縮薬治療や鉄剤の投与、状態によっては輸血や外科治療が必要となる場合もあります。



産できるようチームでサポートします

安心安全な 医療体制を 提供します

当院は、横浜市の産科拠点病院、
神奈川県の地域周産期母子医療センターに
認定されています



さまざまな処置が可能な分娩室



NICU(新生児集中治療室)

早産児や低出生体重児(2500g未満)、先天性の病気を持った重症新生児に対し、呼吸や循環機能の管理といった専門医療を24時間体制で提供します

〈産科拠点病院〉

南部医療圏(港南、南、磯子、中、金沢、栄、全6区)の周産期救急患者(妊娠22週から生後満7日未満までの出産前後の期間で、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性があった場合の患者さん)やハイリスクの妊婦さん(高齢初産や高血圧、糖尿病などの合併症がある)の受け入れも行っています。さらに、異所性妊娠(子宮外妊娠)などの婦人科疾患にも対応しています。

〈地域周産期母子医療センター〉

産科および小児科(新生児医療を担当するもの)などを備え、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設です。(県内では18病院が認定されています)

出産前より無事に元気な赤ちゃんが出

安全な出産

当院では妊婦さんたちの様々な要望に応えられる、安全な分娩施設であることを目指しています。分娩台2台、陣痛室が3部屋あり、うち1部屋はLD.R室としても使用可能です。自然分娩にも力を入れております。(※当院での帝王切開率約16%)

しかしながら、正常分娩のはずが突如異常がおこることも多々あるのがお産です。

その際には医学的適応に応じて帝王切開を行います。麻酔科医、小児科医、手術室等のスタッフも充実しており、緊急の場合にもすぐに帝王切開が行える体制を整えています。

また、当院にはNICUが併設されており、妊娠32週以降の分娩に対応可能です。双胎の経腔分娩、骨盤位(逆子)の経腔分娩も条件はあります。ですが対応しています。医学的適応がある際には硬膜外麻酔による無痛醉による無痛



外来から出産／育児支援まで 同一スタッフが支援

分娩にも対応しておりますが、現時点では希望での無痛分娩は行っておりません。新型コロナウイルス感染拡大をうけて、現在は立ち会い分娩、面会に強い制限を設けていますが、今後も変更がある際には随時ホームページなどに掲載していきますのでご確認ください。(2021年1月現在)

済生会横浜市南部病院の産婦人科外来・病棟スタッフの多くは、助産師の資格を持っています。そのなかにはアドバンス助産師等の資格を持つた助産師もいます。育児をしているスタッフも多く、経験豊富な知識・技術でお母さんをサポートします。顔を合わせる機会が一番多い助産師が外来から入院、そして産後の育児までを通じて、馴染みのあるスタッフがいることは当院最大の特徴です。出産というお母さんが一番不安になるときに、信頼できるスタッフが横にいて安心できるよう、このような体制をとっています。私たちはお母さんと赤ちゃんに安心・安心と笑顔をお届けできるように一番身近で全力で支援していきます。

3D・4Dエコー外来

当院で健診・分娩の方に対して、予約制で行っております。費用は5000円、検査後はUSBメモリにデータを入れてお渡しいたします。ご希望の方は外来窓口またはお電話にて、お問い合わせください。



助産師外来

助産師外来では、産後の生活も含めて妊娠前から育児環境やサポートの相談に応じています。産後は妊娠中と同様の生活は難しくなります。お母さんの育児や家事や仕事で大切にしたいことの優先順位を付けることも重要です。育児への不安は尽きないと思いますが、育児は一人で頑張るものではありません。特にイライラする・やる気がおきないときはお母さんの心が疲れているサインです。周囲の方々や助産師外来にご相談ください。



母親学級

妊娠中の悩みの解消やお産に関する学びを深めることを目的に母親学級を開催していますが、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、当面の間母親学級の開催を中止することとなりました。対象の方は個別に対応をさせていただきます。ご不明点、ご質問等ありましたら外来スタッフまでお声かけください。

る環境が最大の自慢です

誕生とともに、
小児科・新生児内科医師が
赤ちゃんの健康を守ります

新生児は、胎内の羊水中での生活から、出生を境に自分で呼吸をして酸素を取り込むようになる必要があります。これはとても大きな変化で、うまく適応できないことも決して少なくありません。

毎日、産婦人科・小児科・新生児内科医とも当直していますので、夜間でも赤ちゃんに急に気になることが生じたときも、小児科・新生児内科医がすぐに対応することができます。リスクの高いことが予想されるお産のときには出産時に小児科・新生児内科医も立ち会いますし、立ち会いのない状態で生まれた赤ちゃんに泣き声が聞こえたり、お腹の音やおなかの音なども確認します。希望される方には、聴力スクリーニングも行っています。

小児科・新生児内科医の診察時以外は、赤ちゃんは母児同室でお母さん

のすぐ近くで過ごします。診察時に胸の音が気になれば、N－CO－Uに入つていなくてもその場で心臓のエコーの検査をすることもできますし、必要な検査があれば行うことができます。

しっかりと観察したほうが良い時にN－CO－U内に移動します。予想以上に赤ちゃんの回復が早くすぐに呼吸が良くなれば、1日だけN－CO－Uに入った後に再び母児同室に戻ることもでき、赤ちゃんの体調に合わせ、なるべく母子が一緒に過ごせるよう対応しています。

N－CO－U内で赤ちゃんをお預かりしている間、お母さんはご不安になりますが、スタッフが丁寧に診てていきますので安心ください。また、N－CO－U内のお母さん方に臨床心理士も寄り添います。

両親や一足先にパパママになった友人やSNSなどから、理想の母親・父親像を思い描く方も多くいらっしゃるでしょう。助産師として多くの家族のサポートを行ってきたなかで、実際自分が育児を行うにあたり「こんなに赤ちゃんが泣くなんて思わなかつた」「生まれてきたら自然と母乳が出るものと思っていた」「上の子の時と違う」など、理想と現実のギャップに悩まされる方が多くいらっしゃいます。お母さんの体調や赤ちゃんの様子も日々変化しますので、日々のアドバイスが異なり、戸惑われることもあると思います。

スタッフは、お母さんの気持ちに出来る限り寄り添つて対応したいと考えています。疑問や不安なことは、いつでも助産師へご相談ください。

家族のサポートや赤ちゃんの性格など、お母さんや赤ちゃん・家族背景はそれぞれ異なります。正しい答えはインターネットやSNSや誰かの体験談ではありません。お母さんの気持ちを大切に、赤ちゃんの様子をよく観察して、試行錯誤しながら自分達に合った方法を探す必要があります。

妊娠されている方の多くは、赤ちゃんに対し「こんなことをあげたい」「いいお母さんになりたい」とそれぞれ願いがあるかと思います。自分のご

出産後もお母さんの心に
寄り添いながら
サポートします



安心してご出産いただけ

退院後のケアについて

退院後は2週間健診でお母さんと一緒に新生児の診察もあります。

まずは、助産師が新生児に対応し、気になることがあれば、すぐ隣の小児科・新生児内科外来に連絡があり、小児科・新生児内科医が診察します。母乳外来もありますのでご利用ください。順調に成長していれば、次は1か月健診です。

1か月健診では、小児科・新生児内科医が時間をかけて丁寧に診察します。

体の成長はもちろんのこと、異常がないか、また赤ちゃんとの向き合い方、何か気になることが生じたときの対応方法、予防接種の受け方などもお伝えします。いつでもお母さんが安心して育児できるよう、支えていきます。ここまで順調であれば、4か月健診以降は区での健診になります。

NICU卒業児で発達のフォローが必要な場合や定期的に小児科診察が必要なお子さんは、そのまま小児科・新生児内科で診察を行います。

赤ちゃん一人ひとりに合わせて関わっていき、スタッフみんなでご家族とともに赤ちゃんの健やかな成長をみながら、サポートしています。



●療養環境がリニューアルされました



●アメニティーセットがリニューアルされました



●出産後の方へ提供する食事をリニューアルしました



充実した産後のサポート

無事に出産が終わってもそれはゴールではありません。これから始まる育児のスタートです。母乳の悩みや不安、傷の痛み、マタニティブルーなど次々とお母さんに容赦なく問題が襲い掛かる時期もあります。

そんな産後の入院期間を少しでも快適にお過ごしいただくために、療養環境をリニューアルしました。大部屋でも赤ちゃんと過ごしていただきやすいゆとりのある広さとなっています。

また、シャンプー・リンスなどのアメニティがセットとなったプレゼントセットなどもご用意しておりますので、入院の準備がなくても安心です。

産後の食事に関しても、母乳のことも考慮し、栄養バランス、カロリーなども配慮された食事となっております。

当院では産褥入院という制度があります。早産での出産など、母児同室ができないままお母さんが退院されるようなケースでは、お子さんの退院に伴いご自宅で突然育児を開始する不安を少しでも解消していただけるよう、再度入院し、助産師にいつでも相談可能な環境下で母児同室を行っていただくことで、退院後にもスムーズに育児をスタートできるようサポートしていきます。

女性ホルモンに関する疾患と診療について

月経困難症

月経中に日常生活に支障が生じたり、鎮痛剤を服用しなければならないほどの症状（主に腹痛）を経験する女性の割合は約10%です。月経困難症は、月経の不順や月経異常、過多月経、子宮内膜症・子宮腺筋症・子宮筋腫などの疾患を含む総称です。

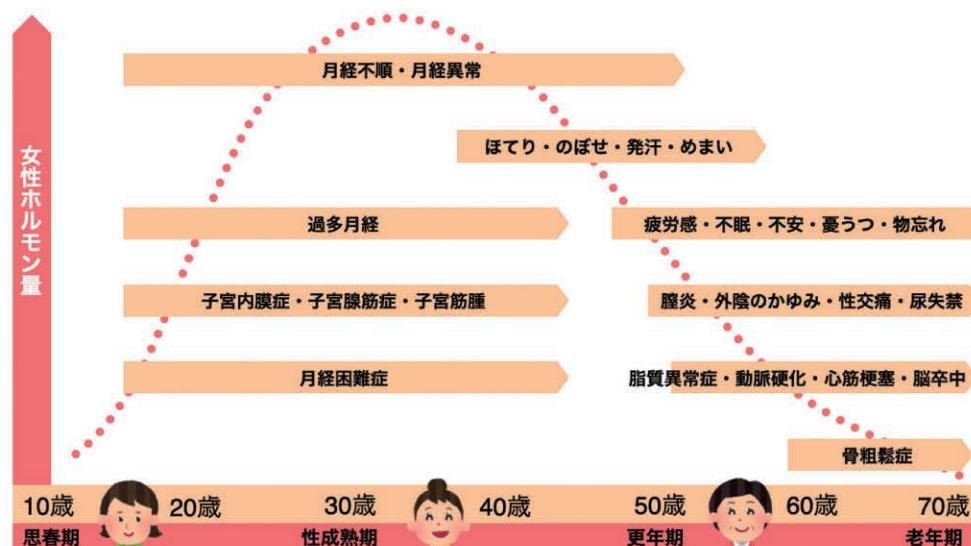
月経前症候群

月経開始の3～10日前から始まる精神的症状（イライラや気分の落ち込みなど）、身体的症状（頭痛やお腹のはり、腰痛など）で月経が始まる症状が良くなっていくのが特徴です。生活指導に加え卵巣・黄体ホルモン配合剤の内服などでの治療を行うこともあります。

思春期

初経の遅れ（遅発初経）

女性のカラダは女性ホルモンによってコントロールされている。女性のカラダは卵巣から分泌される女性ホルモンによって「コントロール」されています。女性は、そのライフステージによって女性ホルモンの分泌量が大きく変化します。エストロゲンは思春期になると分泌が高まって初経（初潮）を迎えます。一方更年期になると急激に低下して閉経を迎えます。女性の心やカラダは一生を通じてホルモンの影響を受けているのです（図1）。



【図1】女性ホルモンとからだの関係

痛、腰痛など)がある場合を月経困難症といいます。月経困難症には原因となる疾患のない「機能性月経困難症」と、原因となる疾患がある「器質性月経困難症」の2つのタイプがあります。

（機能性月経困難症）

特に原因となる病気がなく月経時に子宮の収縮が強く起るためを感じる痛みです。特に10代の若い方に多く、年齢を重ねると軽快していく傾向にあります。鎮痛剤を使用することが多いですが、無効な場合には卵巢・黄体ホルモン配合剤の内服などが有効で、10代の方でも内服可能です。ぜひご相談ください。

（器質性月経困難症）

代表的なものとして「子宮内膜症」「子宮腺筋症」「子宮筋腫」があげられます(図2)。治療としては主に薬で治療する薬物療法と、手術を行う外科的療法があります。症状や年齢、妊娠などの希望を踏まえて相談し、適切な治療を選択していきます。

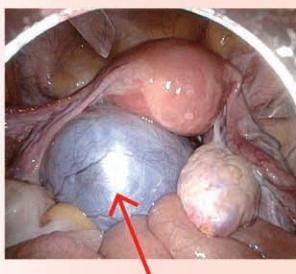
①対症療法：・鎮痛剤や漢方などを使って痛みを抑える治療

②ホルモン療法：・女性ホルモンに関連する薬剤を使用します。ホルモン療法に使用する薬剤は数種類あり、年齢や症状に応じてどのお薬を使用するかは相談して決めます。

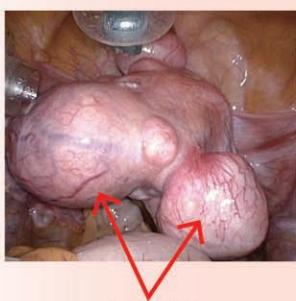
③手術療法：・原因となる疾患に対応して病巣だけを摘出したり縮小させたりする「保存手術」と子宮・卵巢などを摘出する「根治手術」があります。当院では積極的に腹腔鏡手術を行っておりま

【図2】

	子宮内膜症	子宮腺筋症	子宮筋腫
症状	月経痛、下腹部痛、腹痛、性交痛、排便痛、不妊など	月経痛、経血量の増加、貧血症状、出血持続日数の延長など	経血量の増加、貧血症状、不正出血、月経痛、不妊など
病気の説明	子宮以外の臓器で子宮内膜組織に似た組織ができる病気です。病巣にできた組織が、月経のたびに増殖と剥離を繰り返すことで、炎症や癒着を引き起こします。	子宮筋層の中で、子宮内膜組織ができる病気です。子宮筋層の中にできた組織が、月経のたびに増殖と剥離を繰り返し、病気が進むにつれて子宮筋層が厚くなります。	子宮筋層にできた、こぶのような形状の良性の腫瘍。筋腫の位置や大きさ、個数によって症状はさまざまです。
発生部位	卵巣や腹膜 子宮内膜に似た組織 腹膜	子宮筋層 子宮内膜組織 子宮筋層	子宮筋層 筋腫 子宮筋層



卵巣のう腫



子宮筋腫



【図3】 4カ所の創部図

腹腔鏡手術は傷が小さく開腹手術に比べ痛みが軽減でき、術後の回復が早いため、入院期間の短縮、早期の社会復帰が可能です。また、整容性に優れることなどから、手術に伴う患者さんの負担を様々な側面で軽減できる治療法です。

超音波やMRIなどの画像検査をもとに、安全かつ確実に手術を行うことができる方法を検討していきますが、現在当院ではほとんどの良性疾患で腹腔鏡手術を行っています。腹腔鏡の創部は5～15mm程度、基本的には図3のように臍部を含めた4か所の創部を用いて、臍部からカメラを挿入して行います。

開腹手術と違い拡大して観察できるため、より繊細な手術が可能になります。また、婦人科ではこれからお子さんを望まれる若い世代の方に手術を要することも多く、今後の妊娠にとつては開腹手術に比べて術後の癒着が少ないことも利点の一つです。術後は翌日には歩行、食事も可能で多くの方は術後3日目には退院をされています。

また、子宮粘膜下筋腫や子宮内膜ポリープでは、適応がある場合には子宮鏡手術も施行しています。これは子宮の中にカメラを挿入して病变を切除する方法で、お腹に傷を作らずに行うことができる手術であり、手術当日の退院が可能です。

（腹腔鏡手術について）

医療講座

更年期障害について

のぼせ、ほてり、
発汗、口の乾き、
喉のつかえ、肩こり

食欲不振、吐き気、
腹痛、便秘、下痢

しびれ、知覚障害、
関節痛、筋肉痛

膀胱、
性交障害

頭痛、めまい、
耳鳴り、物忘れ、
集中力の低下、不眠、
不安感、疲労感、
イライラ

皮膚や粘膜の
乾燥・かゆみ

動機、
息切れ

更年期に現れるさまざまな症状の中で、症状の原因となるような病気を伴わず、重く日常生活に支障を来す状態を「更年期障害」と言います。イラストにあるように症状は多彩です。

主な原因是女性ホルモンが大きくゆらぎながら低下していくことですが、その上に性格などの心理的因子、職場や家庭における人間関係などの社会的因子が複合的に関与することで発症すると考えられています。

生活習慣の改善などを試み、改善しない症状に対しては、対症療法、漢方療法で調子を整えることもあります。また女性ホルモン補充療法も有効な治療です。



今回のなんぶメールは
いかがでしたか？

よろしければアンケートへ
ご協力ください。

(登録不要・所要時間3分)



南部病院広報誌

なんぶメール vol.31
2021.1

2021年1月発行

【発行人】院長 竹林 茂生
【編集】南部病院広報委員会
【制作】株式会社アルファクリエイト



〒234-0054 横浜市港南区港南台3-2-10

TEL:045-832-1111(代表) FAX:045-832-8335

ホームページ www.nanbu.saiseikai.or.jp